

【資料3-1】

会議資料①

企画財政課
令和7年10月31日

- ① 現行の総合戦略の振り返り(プロジェクトごと)
 - 1. 戦略3の全体像
 - 2. 事業項目ごとの成果と課題
 - 3. 令和6年度までのKPIの達成状況

- ② 関連計画の方向性
 - 1. スポーツ推進計画(R7-R11)
 - 2. 都市計画マスタープラン(R2-R14)

- ③ 次期総合戦略の方向性と事業案
 - 1. 府中駅を中心とした新たなまちの魅力づくり
 - 2. 観光
 - 3. スポーツ
 - 4. 関係人口

現行の総合戦略 戦略3の全体像

戦略3 府中市へのひとの流れをつくる ～地域の価値を高め、魅力あるまちをつくる～

プロジェクト番号	プロジェクト名	取組事業
プロジェクト3	まちの魅力アップ	①i-coreFUCHUの推進 ②新たな都市魅力の創出
プロジェクト4	オンリーワンの観光	①ライフスタイルツーリズム ②恋しき・翁座の保存・活用 ③キャンプ場の活用、ワーケーションの促進 ④観光推進体制の構築／プロモーション強化
プロジェクト5	スポーツで魅力発信	①オンリーワン・ナンバーワンイベントの実施 〔TECHY SPORTSの推進〕 ②スポーツ施設等の充実 ③スポーツによる健康づくりの推進
プロジェクト6	ひととのつながり	①情報発信の強化 ②関係人口、交流人口 ③移住人口の拡大 ④移住センターを活用した賑わい創出 ⑤企業・団体の共感を得、協調による賑わい創出
プロジェクト7	交通戦略	①安心な暮らしを確保する公共交通

現行の総合戦略 戦略3(まちの魅力アップ)の振り返り

【「まちの魅力アップ」ねらい】

これまでの府中市のまちづくりを土台に、空き店舗の活用や町並みの整備などの取り組みをさらに広げ、持続的に発展させることをめざし、令和2年に策定したグランドデザインに基づき、市内外から人々を呼び込む魅力あるまちづくりを進め、府中駅周辺やこどもの国周辺など特定エリアの整備を推進する。

さらに、府中天満屋内に人材や活動が集まる拠点を作り、「来てみたい」「住んでみたい」と思われる地域を実現する。

体系図

まちの魅力アップ（重点区分A）

①	i-coreFUCHUの推進	幅広い世代の「集まり」「憩い」「くつろぐ」ことができ、交流や学びを後押しする場の創出
②	新たな都市魅力の創出	地域魅力の向上による若年層を中心とする新たな人のにぎわいの創出

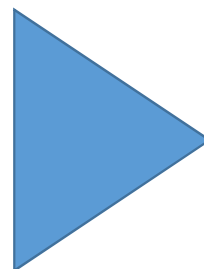
事業項目ごとの成果と課題

(① i-coreFUCHUの推進)

◆DO			◆CHECK				
No.	事業項目	これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	これまでの評価				左記評価の根拠（事業実施による効果 若しくは状況の変化、発現した課題）
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの 貢献度	
1	官民が連携した取組による新たな魅力の創出	①(株)天満屋ストアと「まちづくりに関する協定」の実現に向けた取組み ②NTTdocomoとの連携協定に基づく、ICTを活用した地域課題解決の検討 等	順調	○	○	○	市で締結している官民連携協定を中心に、拠点性を発揮しながら地域課題解決に向けた取組みを推進するものであり、連携協定先と意見交換、協議を継続的に重ね、共同イベントなどの具体的な取組に至っている。
2	幅広い世代間での交流が生まれ、人が人を呼ぶ場の創出	①芝生広場でのマルシェを開催 ②多目的室でのセミナー、企業研修などを開催 ③外部人材を活用したイベント立案、実施など ④カフェなどの憩いとくつろぎのエリアとする第2期整備の設計及び改修工事の実施	順調	○	○	○	第1期整備後はマルシェ等の芝生広場でのイベントには多くの来場者が訪れており、施設との相性の良さが見て取れる。令和6年7月には利用者の満足度向上、滞留時間の延長を目指す第2期整備が完了し、多くの方に利用いただいている。
3	駅周辺を中心に賑わいの波及効果を生み出す発信力の強化	①パブリシティを活用した情報発信 ②関係団体との情報の共有・連携・改善に取り組む。 ③SNSや情報誌での情報発信を拡充 ④地元高校放送部などと連携	順調	○	○	○	インスタやHP、施設内サイネージなどにより、施設や市のイベント情報の発信。地元高校生や大学生と連携した取組みも実施。天満屋・道の駅等の施設管理者との定期的な情報共有を行い、イベント等の連携を図っている。

成果:

・i-coreFUCHUは2度のリニューアルを経て、子育て拠点、多目的室、屋内広場などさまざまな性質の来訪者に利用いただける施設を設置。市内外から多くの来訪者を呼び込める施設となっている。



課題:

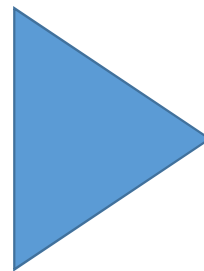
・現状は市の直営での管理運営だが、リニューアル当初の計画では民間への運営委託を想定した事業展開だったため、今後は受付業務等の民間委託の可能性も含め施設運営のあるべき姿の検討が必要。

事業項目ごとの成果と課題 (② 新たな都市魅力の創出)

◆DO			◆CHECK				
No.	事業項目	これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	これまでの評価				左記評価の根拠（事業実施による効果若しくは状況の変化、発現した課題）
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	こどもの国公園等の充実	①R4年度に大型複合遊具を整備。 ②公園内トイレについて、学生コンペによるデザインを基にR4年度に完成。 ③河川空間の整備をR6～7年度にかけて実施予定。	順調	○	○	△	大型遊具を整備により、これまで以上に多くの来場者が訪れている。河川空間の整備については広島県協議を踏まえ、河川内の工事を分け実施する。
2	人々の滞留空間となる広場の創出	駅南エリアに位置する旧岡田木材跡地、旧トウシヨク跡地において、社会実験、ワークショップを実施。R5年度広場の実施設計を行い、R6年度に整備が完了。	完了	○	○	○	コロナの影響によりイベントが開催ができない時期もあったが、コロナ明けに実施回数を増やし、道の駅のイベントなどと連携して多くの参加があった。
3	歩きやすい、歩きたくなるウォーカブルなまちなか空間の推進	都市再生整備計画による事業を実施、計画区域内の各取組に併せたウォーカブルエリアについて検討している。	遅延	△	△	△	ウォーカブルエリアの設定について、駅周辺における他部署との取組と連携を図る中で検討しているが遅れている。
4	【関連PJ：3-3】 市民プール建替え	基本設計、詳細設計を令和5年度に行い、建設工事をR6年度に完了。	完了	○	○	○	令和7年3月に建設工事を完了。 令和7年7月にグランドオープン。

成果：

・こどもの国の大型遊具整備や市営プールの建替えにより、旧施設の倍以上の利用者獲得につながり、まちのにぎわい創出のきっかけになった。



課題：

・ウォーカブルなまちなか空間の推進に向けては、駅周辺の活性化に関する取組との整合を取りながら検討をすすめているものの、進捗は遅延。市の予算状況も踏まえ、今後も積極的に推進するかどうかは要検討。

現行の総合戦略の振り返り 令和6年度までのKPIの達成状況 まちの魅力アップ

- ・i-coreFUCHUのリニューアルオープン以降多くの来場者に利用いただき、令和6年度時点で設定した目標値を達成。
- ・主要な通りにおける交通量については、KPI設定当時の見込みと異なり、平日の通勤者等の利用が多い結果となった。休日の交通量は横ばいの傾向だが、市営プールの建て替えにより目標値の達成を見込む。

KPI		基準値R2	R3	R4	R5	R6	目標値R7
i-coreFUCHU(いこーれふちゅう)来場者数	目標		60,000	70,000	200,000	210,000	220,000
	実績	-	67,858	171,303	202,501	230,711	
府中駅南地区賑わい拠点、地域活動拠点を結ぶ主要な通りにおける休日・平日の1日あたりの自転車・歩行者数	目標		1,879 2,037	2,059 2,103	2,169 2,239	2,235 2,419	平2,300 休2,600
	実績	平1,699 休1,971	2,227 1,811	2,259 2,318	1,991 2,027	2,395 1,827	

現行の総合戦略 戦略3(オンリーワンの観光)の振り返り

【「オンリーワンの観光」ねらい】

ものづくり産業に次ぐ重要な産業として観光を位置づけ、何度も訪れたいくなる「観光客から選ばれるまち」の実現を目指す。

新型コロナの影響を受ける観光環境の中でも、安全で衛生的な受け入れ環境を整備し、昨今注目されるキャンプやワーケーションに対応した取組を進めるため、市内にある自然豊かな3つのキャンプ場を活用し、アウトドア層を重点ターゲットとした情報発信や環境整備を強化する。また、住民や市内企業・団体と連携しながら観光商品の開発・支援やプロモーションを行い、府中市全体で観光の振興に取り組む。

体系図

オンリーワンの観光(重点区分A)

①	ライフスタイルツーリズム	官民一体での地域資源を活かした府中らしさを感じられる「ライフスタイルツーリズム」の推進
②	恋しき・翁座の保存・活用	施設の歴史的・文化的価値の明確化と地域資源としての活用を通じた観光・交流人口の拡大と市街地の賑わい創出
③	キャンプ場の活用、ワーケーションの促進	キャンプ場の環境整備によるワーケーションやリモートワーク促進
④	観光推進体制の構築/プロモーションの強化	広域観光を含む推進体制の構築、安心して観光できる受入体制の整備・プロモーション

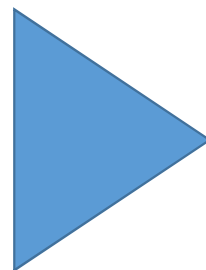
事業項目ごとの成果と課題

(① ライフスタイルツーリズム)

◆DO			◆CHECK				
No.	事業項目	これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	これまでの評価				左記評価の根拠（事業実施による効果若しくは状況の変化、発現した課題）
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	観光商品開発の推進	①観光を切り口に観光地域づくりを実践している地域団体を市・観光協会が連携して支援 ②観光地域づくりを実践している団体に対し、専門家を招聘し観光商品化に向けた助言 ③市内企業を活用した教育旅行プランの商品化	順調	○	○	△	協働のまちづくり助成金、地域再生マネージャー事業を活用し、観光商品開発に向けた取組を支援。コロナ禍に企画した教育旅行は一定のニーズがあったが、収束するにつれニーズが低くなっている。
2	体験メニューの充実	①協和地区の伝統産業「阿字和紙」と松林寺宿坊体験のコンテンツ化 ②恋しきを利用したインバウンド向け日本文化体験プログラムの造成	順調	○	○	△	地域再生マネージャー事業や農泊事業を活用して体験プログラムを開発したが、地域が稼ぐスキームが確立できていない。

成果:

・府中市観光協会主導で企画した多言語対応型のインバウンド向け観光ツアーや恋しきや翁座を活用した外国人向け文化体験などが、インバウンド需要の受け皿として機能。



課題:

・観光産業ではコロナウイルスの盛衰とインバウンド需要の拡大により利用者のニーズが大きく変化しており、新たな利用者ニーズの把握と新規コンテンツの開発が必要。
・体験メニューの充実と併せて地域が稼ぐ環境を構築できておらず、地域団体や民間事業者との連携も必要。

事業項目ごとの成果と課題 (② 恋しき・翁座の保存・活用)

◆DO			◆CHECK				
No.	事業項目	これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	これまでの評価				左記評価の根拠（事業実施による効果若しくは状況の変化、発現した課題）
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	恋しきの保存、利活用	①恋しき活用検討委員会の開催 ②恋しきの一般公開 ③一般公開、料亭再開のための施設改修 ④モバイルガイドを活用した恋しき案内 ⑤恋しき離れを活用した分散型ホテル構想 ⑥恋しきにおける食の魅力発信	順調	○	○	○	一般公開をはじめ、市の特産品などの展示や食イベントの実施、また、料亭機能の再開に向けた諸準備を行い、令和6年4月からの実施に至っている。分散型ホテルについては、事業を中断している。
2	翁座の保存、利活用	①翁座活用検討委員会による活用の方向性を決定 ②翁座の一般公開（土日・祝日等）と施設ガイド配置による集客力の向上 ③耐震改修や復原改修に向けた設計	順調	○	○	○	活用検討委員会からの答申を受け、改修に向けた設計に着手した。芝居小屋本来の用途としての活用や地元住民による活用などができるよう、保存と活用のバランスを見極めながら最適な施設改修を目指す。

成果:

- ・料亭機能の再開や施設の一般公開など、施設の利活用に向けた取組を多数実施。
- ・各施設の利活用促進に向けては、あらたに一般公募型のイベントも実施している。

課題:

- ・施設HP、雑誌、市SNS等で施設情報等を発信しているがさらなる利活用促進に向けては情報発信が不足。
- ・市のランドマークとして情報を広めるためには市民の意識醸成も必要。
- ・恋しきと翁座の大規模改修については市の財政状況を勘案して一時凍結している。

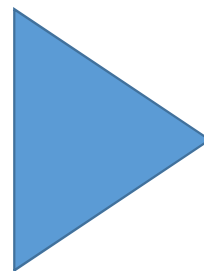
事業項目ごとの成果と課題

(③ キャンプ場の活用、ワーケーションの促進)

◆DO			◆CHECK				
No.	事業項目	これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	これまでの評価				左記評価の根拠（事業実施による効果若しくは状況の変化、発現した課題）
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	ワーケーション環境の構築、商品化	ワーケーション事業を推進するため、専門家の招聘、モニターツアー、戦略書の作成、プロモーションを実施し、R3年度に羽高湖と四季の里に環境を整備した。	完了	△	×	×	ワーケーションにおける「余暇」の部分の魅力の一つとしてキャンプ場に併設し、利用促進を図ったが、ワーケーションとしての利用は少ない。
2	キャンプ場の施設の整備	キャンプ場利用者の利便性を確保するため、シャワー設備の設置、トイレの新設、改修を実施した。	完了	○	○	○	四季の里のシャワー設置及びトイレ改修並びに羽高湖のトイレ新設により利便性が向上した。また、WEB予約サイトを構築したことで利用者が伸びた。
3	施設運営の抜本的見直し	民間事業者のアイデアやノウハウを施設運営に最大限活かすため、民間事業者に対して運営管理の公募を実施中。	完了	○	○	○	キャンプ場の管理に関する基本構想をまとめ、市内3か所のキャンプ場を一括して運営管理を行う民間事業者を公募し事業者を選定した。

成果:

・キャンプ場の施設整備やWEB予約サイトの構築により、コロナ禍でもおひとり様やファミリー層など小規模でのアウトドア需要の受け口となった。



課題:

・コロナウイルスの流行も収束し、アウトドア需要が一服している中で持続可能な施設運営も検討が必要。
 ・ワーケーション環境の整備に向けてトレーラーの導入等も実施したが、ターゲット設定が不明確でありワーケーション需要をとらえきれなかった。

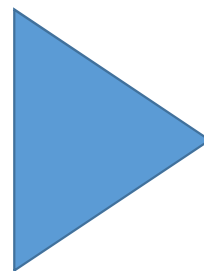
事業項目ごとの成果と課題

(④ 観光推進体制の構築/プロモーションの強化)

◆DO			◆CHECK				
No.	事業項目	これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	これまでの評価				左記評価の根拠（事業実施による効果若しくは状況の変化、発現した課題）
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	観光推進体制の構築	府中市観光協会を中心として、市民や企業等に対して、観光への参加・協力を促し、産業や地域での観光振興をけん引することで、オール府中での観光推進体制を構築を図った。	完了	○	○	○	府中市観光協会の一般社団法人化が完了。民間事業者から地域活性化起業人を受入れ、新たな観光商品として教育旅行を開発した。
2	広域連携（北備後、備後圏域）による観光推進	①北びんご観光連携協議会による教育旅行誘致に係るプロモーションを実施。圏域内キャンプ場を巡るスタンプラリーを企画。②備後圏域内市町によるワーケーションの情報発信、モニターツアー、インバウンドの誘客。	順調	△	○	△	教育旅行誘致に係るプロモーションを実施したが、コロナ明けによる地方訪問ニーズが低下している。
3	観光商品化、受入環境整備、プロモーションの推進	①新たな観光商品化の取組 ②観光チャレンジ補助金による受入環境整備 ③観光トイレ整備、おもてなしトイレ事業者の募集 ④府中市観光協会ホームページのリニューアル	順調	○	○	○	トイレツーリズムでの市内観光を促進。滞在時間の延長やリピーターの増加につながる観光商品の造成が課題。

成果:

- ・観光振興ビジョンに基づき府中市観光協会を法人化し、民と官の間の役割を担うことで、新たな商品を生み出すなど一定の成果があった。
- ・観光トイレやおもてなしトイレなどトイレツーリズムを全国に先駆けて取組み、認知度の向上に役立った。



課題:

- ・上下地域に観光資源が集中していることからインバウンド訪問も上下地域に集中。今後は市内全域に効果を波及させることが重要。
- ・観光客数の伸びに対し、観光消費額は低調。宿泊施設の増設や観光地の有料化など観光客が市内でお金を落とす仕組みづくりが必要。

現行の総合戦略の振り返り 令和6年度までのKPIの達成状況 オンリーワンの観光

- ・総観光客数は新型コロナウイルスの影響を受けたものの、令和5年度以降は回復傾向にあり目標値に向けて順調に推移。
- ・観光消費額は令和2年度の基準値以降低調に推移。令和5年以降観光客数が増加したことや令和5年度のG7サミット、外出規制の緩和等に伴い観光消費額も回復傾向に転じている。
- ・観光ツアーは昨年度の開催がなく実績なし。目標値達成に向け集客力のある観光コンテンツの開発が必要。

KPI		基準値R2	R3	R4	R5	R6	目標値R7
総観光客数	目標		1,410	1,431	1,452	1,474	1,496千人
	実績	1,114千人	802	864	1,154	1,393	
観光消費額	目標		2,646	2,739	2,835	2,934	3,039百万円
	実績	1,998百万円	846	998	801	1,363	
市の事業により実施した観光商品開発による観光ツアーに係る来客数	目標		380	500	550	580	660人
	実績	280人	358	638	195	—	

現行の総合戦略 戦略3(スポーツで魅力発信)の振り返り

【「スポーツで魅力発信」ねらい】

若い世代からの体力・健康づくりが高齢時のフレイル予防につながることを踏まえ、スポーツを楽しめる環境を整備するとともに、「する」だけでなく「見る」「支える」など多様な形で価値を共有するスポーツの特性を活かし、住民交流や市外からの人の呼び込みを通じて、観光やまちづくり、地域活性化、知名度向上を図る。

アーバンスポーツやeスポーツ、オンラインイベントなど新しい分野の活用を進め、スポーツを通じた地域振興と定着を目指すことで地域の賑わいを生み出すとともに、市民や市外の人々から「選ばれる府中市」を実現し、府中市への愛着や誇りを育む。

体系図

スポーツで魅力発信(重点区分A)

①	オンリーワン・ナンバーワンイベントの実施 [TECHY SPORTSの推進]	まちなかマラソン、ゼロハンカーレース等の取組を通じた府中市の魅力・価値向上
②	スポーツ施設等の充実	商業施設、マンション、オフィスなど、民との連携によるスポーツ施設等の複合化、多機能化
③	スポーツによる健康づくりの推進	高齢化に伴う健康状態の低下の予防に向けた、スポーツ習慣づくりの環境整備

事業項目ごとの成果と課題

(① オンリーワン・ナンバーワンイベントの実施)

No.	事業項目	◆DO これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	◆CHECK				左記評価の根拠（事業実施による効果若しくは状況の変化、発現した課題）
			これまでの評価				
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	(仮称) 府中市まちなかマラソン大会	オンラインとオフラインを融合させたハイブリットマラソンの実施。 ・認知度向上（マスメディア、SNSの活用） ・大会運営と府中市の特性を生かした付加価値向上	順調	○	○	○	・第4回を迎え、認知度も含め定着してきている。 ・親子ペアランの実施など、より幅広い年齢層が参加できる大会となった。
2	全日本EV&ゼロハンカーレース大会	全日本EV&ゼロハンカーレース大会の開催 ・認知度向上（マスメディア、SNS、ゼロハンカーの制作及び展示等） ・賑わい創出と交流人口の創出・拡大	順調	△	△	△	・事業見直しにより令和6年度からは市の主体的な関与から、民間団体等を主体とした運営へ移行した。 ・市負担金がない中で実施された。
3	【関連PJ：5-2】 ドローンフェスの開催	全国規模のドローンレースを開催し、市内外からの競技者及びその関係者を集めるとともに、ドローンそのものの認知度向上や普及啓発に取り組んだ。 1) ドローンレース全国大会の誘致 2) ドローン関係イベントの実施	完了	○	○	○	レース及びイベントを同日同会場で初めて開催した。来場者約3,000人が訪れドローンのまちとしてのイメージ定着に貢献した。
4	アーバンスポーツ・eスポーツの推進	アーバンスポーツ（BMX、スケートボードなど）やeスポーツを賑わいづくりにつなげる。 ・施設の整備、大会の誘致、イベント開催	完了	△	△	△	アーバンスポーツ（スケートボード）について、まちなかで社会実験を実施。一定のニーズはあったが騒音などの課題も表面化。

成果:

・まちなかマラソンはハイブリット開催により市内外を問わず多くの参加者を呼び込めている。

課題:

・イベントへの多くの参加者はあるものの、一過性のものになっており、本市への経済効果や関係人口の創出に向けて展開していく必要がある。

事業項目ごとの成果と課題 (② スポーツ施設等の充実)

◆DO			◆CHECK				
No.	事業項目	これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	これまでの評価				左記評価の根拠（事業実施による効果 若しくは状況の変化、発現した課題）
			進捗	ニーズ	費用対 効果	KPIへの 貢献度	
1	市民プール建替え【関連：町の魅力アップ】	○基本設計、詳細設計を令和6年3月に完了し、建設工事に着手。	完了	○	○	○	予定通り令和7年3月に建設工事を完了。 令和7年7月にグランドオープン。
2	人工芝生グラウンドの設置	R5年5月に人工芝グラウンドを供用開始。合宿所兼お試し住宅として市営住宅を一部改修し、R6年3月から利用を開始した。	完了	○	○	○	合宿所としての利用は0件だった。 ニーズとしては収容人数の多い合宿所が求められている。
3	スポーツ振興の拠点づくり	住民の福祉の向上と地域の活性化を図ることを目的として、府中市におけるスポーツ推進を担う統一的な組織を設立する。	遅延	△	○	△	R6年4月に上下スポーツクラブが設立され、地域でのスポーツの推進が図れている。

成果：

・市民プールの建替え、上下運動公園の人工芝グラウンド設置、上下地域の合宿施設の整備など、スポーツができる環境づくりに向けたハード面の整備は大きく進展した。

課題：

・合宿所の活用やスポーツに限らない施設のイベント利用の促進に向けては情報発信の強化が必要。

事業項目ごとの成果と課題 (③ スポーツによる健康づくりの推進)

◆DO			◆CHECK				
No.	事業項目	これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	これまでの評価				左記評価の根拠（事業実施による効果若しくは状況の変化、発現した課題）
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	ウェアラブル端末やアプリ等の活用促進により、日常生活において健康づくりを意識する仕組構築	ウェアラブル端末やアプリを活用した健康づくりを検討する。	未実施	△	-	×	市独自のウェアラブル端末やアプリ等を活用した新たな事業までは行っていない。
2	必要な健康づくりや運動のメニューは世代ごとに異なっており、世代間の継続性を図りつつ世代別の発信を行う	世代別の健康づくりや運動メニューに応じた情報発信を行う。	未実施	△	-	×	世代別を意識した効果的な取組まで至っていない。
3	スポーツ振興計画の策定	平成28年に策定した「府中市スポーツ推進計画」について、計画の進捗状況、国の政策動向等の変化に対応するため、早期に見直しを行う。	順調	△	-	△	R7年3月に計画策定を完了した。

成果:

・積極的にスポーツを取り入れることで、健康づくりにとどまらず市民が豊かな生活を送ることを実現するため、スポーツ推進計画を策定。



課題:

・ウェアラブル端末の導入や世代ごとの健康づくりの取組はKPIへの貢献度やニーズを考慮し未実施。このうち世代ごとの健康づくりの取組については、スポーツ推進計画の取組項目として記載。

現行の総合戦略の振り返り 令和6年度までのKPIの達成状況 スポーツで魅力発信

- ・施設の利用者数は目標の20万人を大幅に超え、早期達成を実現した。
- ・わがまちスポーツのイベントへの参加者数は令和5年度まで順調に推移し目標を達成したものの、令和6年度にドローンフェスの中止、ゼロハンカーレースの主体の変更などがあり、市が主催するイベント数が減少したため目標達成が困難となった。
- ・スポーツ大会・合宿の誘致は戦略策定後から合宿所等の整備をはじめたが時間的・経済的制約が生じたため誘致の実現には至っていない。

KPI		基準値R2	R3	R4	R5	R6	目標値R7
スポーツ施設利用者数	目標		130,000	140,000	160,000	180,000	200,000人
	実績	123,078人	143,917	159,676	246,836	265,331	
わがまち♥スポーツ参加者数	目標		1,000	1,500	2,000	2,500	3,000人
	実績	652人	466	1,051	3,962	1,021	
スポーツ大会・合宿の誘致数	目標		1	2	4	6	10件 (累計)
	実績	0件	0	0	0	0	

現行の総合戦略 戦略3(ひととのつながり)の振り返り

【「ひととのつながり」ねらい】

移住・定住促進のための支援や情報発信を強化し、「ものづくりのまち」としての魅力を体験交流活動を通じて発信するとともに、企業や団体、教育機関との連携を図り、市内外の人材のコラボレーションを促進し、地域の活気づくりを目指す。

体系図

ひととのつながり（重点区分B）

①	情報発信の強化	効果的な情報発信を通じた府中市の認知度向上やにぎわいの創出
②	関係人口、交流人口の拡大	市の強みであるものづくり産業との交流機会を創出し、関係・交流人口を増加させ、移住につなげる
③	移住人口の拡大	暮らしのイメージができる機会の提供により移住者を増加
④	移住センターを活用した賑わい創出	コワーキングスペースや市内人材との協働の場の提供を通じて地域の活性化と賑わいを創出
⑤	企業・団体の共感を得、協調による賑わい創出	官民の相互連携によりまちのにぎわい、活気づくりを促進

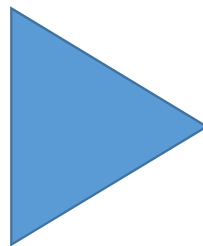
事業項目ごとの成果と課題

(① 情報発信の強化)

No.	事業項目	◆DO これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	◆CHECK				
			これまでの評価				左記評価の根拠（事業実施による効果 若しくは状況の変化、発現した課題）
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	移住促進サイト、移住パンフレットの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度、府中市での暮らし方など、移住希望者の関心・共感を得る「府中市の魅力」の情報発信を強化するため、サイトのリニューアルを行った。 ・R5年度はターゲットをしぼった特設サイト（上下の町並みへの移住促進・先輩移住者の声など）をオープンした。 ・R6年度については、子育て世帯に向けたサイトの作成およびジチタイアドと連携したパンフレットの作成（無料）を行った。 	完了	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・市の魅力や移住に必要な情報を分かりやすく発信するHPやチラシを作成・配布した結果、本市に興味を持つ移住検討者への情報提供が効果的に行えたことで、実際の移住者獲得へとつながっている。 ・R6年度には地域活性化や観光に関心を持つ方が移住し、移住後はNPO等のイベントに積極的に参加。その意欲が地域や就職先の活性化に貢献している。
2	ふるさと納税（企業版ふるさと納税を含む。）の取組強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税ポータルサイトの増加（ANA、JAL、Amazon、ふるさとtoらべる） ・返礼品の充実（恋しき・セミオーダー家具等） ・企業版ふるさと納税に関する提携先を増加し、収入増加を図る（JTB、RCG）。 	順調	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税では、高所得者層や若年層をターゲットにふるさと納税ポータルサイトを4つ新設。市の特産品のPR強化と寄附金額の増加を実現した。 ・企業版ふるさと納税については、寄附金が堅調なことに加え物品の寄附もあり、令和5年度より寄附金額が増加した。
3	移住・定住促進のための関係部署の連携強化	子育て応援課、監理課、都市デザイン課と連携し、子育て世帯に向けたサイトの作成およびジチタイアドと連携したパンフレットの作成（無料）を行った。また、子育て世帯の移住者獲得に向けてポムポムにPRブースを設置した。	順調	○	-	○	R6年度末に完成したため効果検証は行えていないが、連携した結果、ターゲットに向けて子育て施策が確実に届いている状況を作れた。
4	府中市出身者のネットワークの構築	府中市出身者だけでなく、府中市に繋がりのある人や企業などの情報をデータベース化し、個別のニーズにあった情報発信を行う。	未実施	△	-	-	キーマンリストの作成するためのスキームの検討までに至っていない。

成果:

- ・移住検討者向けに専用HPの開設や市の魅力をまとめたチラシの配布等により移住者獲得につながった。
- ・ふるさと納税については高所得者や若年層向けにポータルサイトを新規開設し、ターゲットを明確化した。



課題:

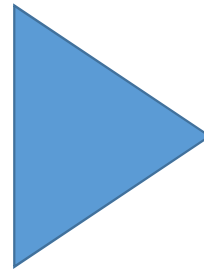
- ・移住、子育て、ふるさと納税といった特定の分野における情報発信は進展したものの、その他分野に関する情報発信は不十分。今後の取り組みでは発信する項目をさらに拡大する必要がある。

事業項目ごとの成果と課題 (② 関係人口、交流人口の拡大)

◆DO			◆CHECK				
No.	事業項目	これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	これまでの評価				左記評価の根拠(事業実施による効果 若しくは状況の変化、発現した課題)
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	大学生等の若者に府中での暮らしを体験してもらう「府中市版ふるさとワーキングホリデー」の実施	関係人口を創出・拡大し、将来的に定住人口としての移住者となってもらうことを目的として、R3年度から府中市版「ふるさとワーキングホリデー」を実施している。	完了	○	△	△	順調に利用者が増加し関係人口の増加に繋がってはいるが、深い関わりや移住までには至っていない。
2	アーティストやクリエイターをターゲットとした移住・関係人口創出イベント	ものづくりに興味・関心を持つ芸術系のデザイナーやクリエイティブな人材と「ものづくり」企業とのマッチングを図る。	未実施	△	-	×	企業側のニーズ調査ができていない。
3	オンリーワンイベントの実施【関連：スポーツで魅力発信】	「TECHY SPORTSのメッカ」としてのブランディングを目指し、全日本EV&ゼロハンカーレース大会の定期的な開催を行う。 ・戦略的広報による大会の認知度向上(マスメディア、SNSの活用、ゼロハンカーの制作及び展示等、田川ヒロアキ氏によるテーマソング製作)	順調	△	△	△	オンリーワンイベントとして、全国から大会に参加があり、関係人口の獲得に繋がっている。 事業見直しにより令和6年度からは市の主体的な関与から、民間団体等を主体とした運営へ移行した。

成果:

- ・ワーキングホリデーは関係人口の増加に向けて順調に利用者が増加。
- ・イベント実施について、毎年のゼロハンカーレース大会に全国から参加があり、広いエリアからの関係人口創出に貢献している。



課題:

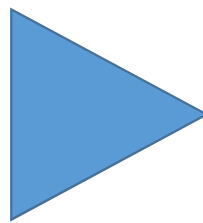
- ・それぞれの取組が関係人口の創出につながっているが、それ以上の関わりにつなげられていない状況であることから、取組の効果を考慮しつつ事業を見直す必要がある。
- ・今後の取組においては関係人口の創出に加え、活躍の機会創出も検討・進展させる必要がある。

事業項目ごとの成果と課題 (③ 移住人口の拡大)

No.	事業項目	◆DO これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	◆CHECK				
			これまでの評価				左記評価の根拠（事業実施による効果 若しくは状況の変化、発現した課題）
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	専任の移住相談員（ふちゅうライフデザイナー）の配置	移住希望者の相談にきめ細かく対応することで、府中市に魅力を感じ、住んでもらうことを目的としてR3年度から設置している。	完了	○	△	△	仕事や住まいの情報も含めすべての移住関連情報を一元的に提供できるようになり、相談件数、移住者数が増加した。
2	市が運営することにより個人間での取引も可能となる「NEW空き家バンク」の本格運用	市が積極的に空き家バンクの運営に関わり物件情報を集約するとともに、個人間取引として売買が可能となる仕組みに見直しを行った。令和3年度から市HP及び県空き家バンク「みんと」においても物件を照会。	完了	○	○	○	WEBで物件の様子が詳しく確認できる360度カメラによるVR内覧などの取組により物件成約実績が年々増加している。
3	お試し移住体験住宅、移住支援金	<p><お試し移住体験住宅>”お試し”暮らしを体験してもらうことで移住・定住につなげるため、令和3年に1件、令和5年に市営住宅3部屋を整備した。</p> <p><移住支援金>県と連携し、東京圏（23区）から転居・就業に至った場合に移住支援金を給付した。</p>	順調	△	△	○	<p><お試し移住体験住宅>令和5年度より施設数を増やし、利用は順調。令和6年度には、2名の利用者に対して市内企業へのアテンドを行い、いずれも市内企業への就職が決まり、移住者の獲得につながった。</p> <p><移住支援金>令和6年度の申請数は2件。テレワーク移住者が利用した。</p>
4	移住定住フェア、Uターン相談会	県実施フェアに年3回参加（東京2、大阪1）。近隣市町（備後圏域）とは年1回合同で開催。	順調	△	△	△	1回あたりの平均相談件数10件 市単独フェアは実施しておらず、県主催の移住フェアなどに参加している。

成果:

- ・ふちゅうライフデザイナーによるきめ細やかな対応により移住相談やそこから移住に発展した件数が増加。
- ・その他移住者が住みやすい環境の構築に向けた様々な施策展開も奏功し、KPIの達成にむけて順調に推移。



課題:

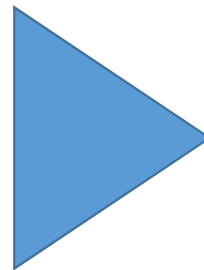
- ・ふちゅうライフデザイナーの配置見直しにより令和5年度以降の相談件数が減少。
- ・転入者の多くは近隣市町や広島と大阪の都市部に集中しており、首都圏以外へのアプローチも検討が必要。

事業項目ごとの成果と課題 (④ 移住センターを活用した賑わい創出)

◆DO			◆CHECK				
No.	事業項目	これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	これまでの評価				左記評価の根拠（事業実施による効果若しくは状況の変化、発現した課題）
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	人材のハブ拠点（移住センター）の整備	コワーキングスペースの運営、移住相談窓口としての対応、地域住民との交流イベント等の開催や地域振興活動を行うための拠点施設となる移住交流支援センターを設置する。 (1) 人：関係人口案内人、地元のキーマンのリスト化 (2) 場：場所の選定 (3) 仕組み：つながりを創出し共創関係を生み出す企画等のコンテンツ作成	未実施	△	-	-	整備できていない。
2	移住者等と地域のキーマンとの交流の場の提供		遅延	△	-	-	地元のキーマンを一部リスト化しているが、活用に至っていない。
3	賑わいづくり		未実施	△	-	-	実施に至っていない。

成果:

・移住者と地域のつながりを円滑に進めるため、地域のキーマンのリストを開始した。



課題:

・移住センターの整備や賑わいづくりはKPI達成との関連性が低く、他の移住施策を優先的に進めた結果、上記の取組が進展していないため、今後、事業の必要性を再度検討する必要がある。

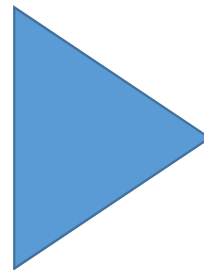
事業項目ごとの成果と課題

(⑤ 企業・団体の共感を得、協調による賑わい創出)

◆DO			◆CHECK				
No.	事業項目	これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	これまでの評価				左記評価の根拠（事業実施による効果 若しくは状況の変化、発現した課題）
			進捗	ニーズ	費用対 効果	KPIへの 貢献度	
1	広範な分野での包括連携 協定締結	市外企業（対外発信力）、市内企業（市内人材との協働）、大学（若い人材の関係人口化）という3分野で包括連携を行うことで、行政だけでは実行できない分野への着手や新たな発想による施策展開につなげる。	順調	○	○	△	令和5年度は新たに交通安全の推進や災害時のサポートなどに関して、民間事業者と締結。令和6年度は持続可能な地域づくりやスポーツの振興について民間事業者と協定を締結。民間の力やノウハウを活用して課題解決に繋げている。

成果:

・地域課題解決に向けて様々な内容の協定を締結し、民間の力を借りながら地域課題の解決に進めている。



課題:

・過去に包括連携協定を締結した事業者等との関係構築や事業連携が不十分。地域や事業者を巻き込んだ施策展開に向け、締結先との連携の模索が必要。

現行の総合戦略の振り返り 令和6年度までのKPIの達成状況 ひとつのつながり

- ・UIJターンによる転入者数は数値の増減はあるものの、目標値を毎年達成しており一定程度のふるさと回帰ニーズはあることが見込まれる。
- ・移住相談件数はふちゅうライフデザイナーの廃止に伴い、令和5年度以降の件数が大幅に低下。
- ・空き家バンクの成約数は令和3年度以降、目標値を達成し続けている。
- ・ふるさと納税額は増加傾向にあるが、昨年度は目標額の達成には至っていない。

KPI		基準値R2	R3	R4	R5	R6	目標値R7
UIJターン転入者数(広島県の人口移動統計調査による移住者数)	目標		20	40	60	80	100人
	実績	-	152	145	170	121	
移住相談件数	目標		80	90	100	110	120件
	実績	74件	98	119	77	80	
空き家バンク成約数	目標		3	5	7	9	10件
	実績	2件	10	11	10	16	
ふるさと納税額(企業版ふるさと納税も含む。)	目標		1億円	1億5千万円	2億円	2億5千万円	3億円
	実績	7,225万円	1億4,258万円	1億6,415万円	2億5,599万円	2億337万円	

現行の総合戦略 戦略3(交通戦略)の振り返り

【「交通戦略」ねらい】

市民の日常生活を支えるため、公共交通の役割を再認識し、効率的かつ効果的で、多くの市民が安心して利用できる交通システムの構築を進める。これにより、公共交通を安定的に運営し、地域の移動手段としての機能をしっかりと確保していくことを目指す。

体系図

交通戦略（重点区分B）

①	安心な暮らしを確保する公共交通	高齢化社会の進展や地域社会の変化など環境の変化を踏まえ、公共交通の在り方を再構築
---	-----------------	--

事業項目ごとの成果と課題

(① 安心な暮らしを確保する公共交通)

◆DO			◆CHECK				
No.	事業項目	これまでの具体的な取組内容 (未実施の場合当初予定)	これまでの評価				左記評価の根拠（事業実施による効果若しくは状況の変化、発現した課題）
			進捗	ニーズ	費用対効果	KPIへの貢献度	
1	現行の公共交通の効率的な運行の実現	南宮・栗柄バス路線の再編（令和4年度完了）	完了	○	○	△	令和4年4月に再編し、効率的な運行が可能となった。
2	コミュニティバス、タクシーの乗り継ぎ利用の利便性向上	上記路線再編に併せた市内循環バスとの乗り継ぎ割引を実施 自家用有償運行に対する支援制度を整備	完了	△	△	○	乗り継ぎ割引実施後、コミュニティバスの利用者が微増。また、協和地域への自家用有償運行を支援しており、利用者は増加傾向。
3	持続可能な公共交通のあり方検討会議の開催	令和6年3月に府中市地域公共交通計画を策定	完了	○	○	△	令和4年度～5年度にかけ府中市公共交通活性化協議会や関係機関との協議を進め策定。
4	乗り方教室、スマートフォン利用教室など出前講座の開催	公共交通を取り巻く現状や地域路線の運行に関する講座を開催（まちづくり出前講座）。併せて、市内循環バスで使用するEVバスの乗車体験会を開催し、公共交通利用のきっかけづくりに努めた。	遅延	△	-	△	令和6年度の出前講座は1会場にて開催。スマートフォン利用教室については実施できていない。

成果:

・公共交通機関の効率的な運用に向け、市内路線の一部を見直したことに加え、ぐるっとバスと乗り継ぎに対する割引を実施することで、日常使いしやすい路線として再編。

課題:

・住民の日常生活を支える最適な交通システム構築に向けて、各交通機関の利用実態の注視を継続し、必要に応じて事業者等と協力して改善を図るとともに、交通機関の利用者確保に向けた周知・啓発に努める必要がある。

現行の総合戦略の振り返り 令和6年度までのKPIの達成状況 交通戦略

・ぐるっとバスの利用者は横ばいで推移しており、目標達成には至っていない。乗り継ぎ割引により利用者が微増したことなどを踏まえ、ルートや運行時間の見直し等、利便性の向上に向けた取組を進めていく。

KPI		基準値R1	R3	R4	R5	R6	目標値R7
府中ぐるっとバス利用者の1日当たりの平均利用者数	目標		100	108	116	124	132人
	実績	93人	73	78	84	81	

関連計画の方向性

◆スポーツ推進計画（R7-R11）が目指す姿

【すべての人がスポーツを楽しめる環境の整備】

年齢や性別、障害の有無に関わらず、全ての市民がそれぞれのライフステージや関心などに応じてスポーツを楽しめる環境の整備

【スポーツによる地域の賑わい創出】

スポーツ活動を「まちづくり」「地域振興」につなげることにより、交流人口の拡大や持続可能なコミュニティを形成

◆都市計画マスタープラン（R2-R14）が目指す姿

【安心・安全で快適に暮らせるまちの実現】

防災・減災を重視した都市基盤の整備、緑地や公園の充実

【持続可能で環境に配慮したまちづくり】

自然環境の保全や再エネの活用、低炭素社会の実現

【市民主体の魅力ある地域づくり】

府中市の歴史や文化の活用、多様な価値観を反映した地域参加型まちづくり

これまでの会議における議論のポイント

- 全体の方向性について【これまでの振り返り】
 - 人口減少は地方都市で共通している課題。
競争領域(市が差別化を図る部分)と協調領域(広域で協力して取り組むこと)の設定が重要。
 - 女性や若者をターゲットにしている点は地方都市共通の方向性。
その中で高齢者についてどう考えていくかを示すことが重要。
 - ポジティブな方向性として「活躍できるまち」を目指すという思いは一致。
そのために何をするか、というところでは“府中ならでは”を真摯に考えていく必要がある。
 - 府中市を選ばれた人の声を拾い上げることが、府中市の強みとは何かを改めて認識することにつながる。
 - 若い世代と高齢者が共存し、「(誰もが)活躍できるまち」であることを府中市の強みとし、この部分に関する踏み込んだ議論が必要。
- ⇒府中市に関わるあらゆる人が活躍できるよう、すべての分野で幅広く支援していくことが必要。
- ⇒ものづくりや教育など、府中市の強みとなる分野を中心に施策を展開していくことが求められる。
- 魅力向上、観光、スポーツ分野について
 - まちの玄関口となる府中駅を中心とし、近隣施設との連携を通じた市の魅力向上が必要。
 - 市内の地域の用途見直しを含めた形でのコンパクトシティの実現という要素が含まれるとよいのではないか。
 - 魅力向上、にぎわい創出とあるが、府中ならでは、というところを真摯に考えていく必要があると思う。
- ⇒府中市独自の地域資源を活かしながら、広域と連携した施策の検討が必要。

次期総合戦略 戦略3の全体像(案)

①府中駅を中心とした新たなまちの魅力

- 府中駅南エリアを起点としたにぎわいづくり【継続】
- 府中駅北エリアの整備【継続】

②観光

- インバウンドの呼び込み【継続】
- 広域観光の推進【継続】

③スポーツ

- スポーツを楽しめる環境づくり【継続】
- スポーツを通じた地域のにぎわい創出【継続】

④関係人口

- 空き家を活用したまちのにぎわいづくり【継続】
- ふるさと納税の取組強化【継続】
- ふるさと住民登録制度への参画に向けた検討【新規】

課題と情勢を踏まえた新たなプロジェクト

① 府中駅を中心とする新たなまちの魅力

【取組の目的】

府中市のまちの顔であるJR府中駅を整備するとともに、駅周辺に所在する公共施設の活用を促進することで、来街者やまちなかに近い住宅地に居住する人にとっても足を運びやすい環境を整備することでにぎわいを創出する。

○府中駅南エリアを起点としたにぎわいづくり【継続】

-POMPOM、i-coreFUCHU、道の駅びんご府中、スピングルウェルネスセンターなど、これまでに集中的に設置してきた公共施設を活用し、府中駅南エリアをにぎわいと交流を生むエリアとして位置づけるための取組を検討する。

○府中駅北エリアの整備【継続】

-駅前のトイレ・ロータリーの再整備や市立図書館の駐車場の活用促進など、府中駅北エリアの利便性を高め、来街者が増える仕組みを検討する。

課題と情勢を踏まえた新たなプロジェクト

② 観光

【取組の目的】

拡大するインバウンド需要を市内でも取りこぼさず拾い上げるとともに、市内各地域への訪問者が他の地域にも足を運ぶような仕組み作りを検討するとともに、今後、県が検討している宿泊税の効果的な活用を図る。

○インバウンドの呼び込み【継続】

-年々増加する外国人の訪日需要を市内にも波及させるため、短期的には市内の案内看板等の多言語表記や音声案内の実施、中長期的には官民の連携による外国人向け観光ツアーの造成等を行う。

○広域観光の推進【継続】

-府中市が持つ歴史的背景や文化等を活かしながら、広域内の主要な観光スポットとの連携を行うことで、複数の魅力を持つ観光エリアとして育て上げる。加えて、府中エリアと上下エリアで異なる趣を持つ府中市として、府中エリアは福山や尾道と、上下エリアは世羅や神石との連携によりびんご圏域全体の集客力向上を通じて府中市への誘客を図る。

課題と情勢を踏まえた新たなプロジェクト

③ スポーツ

【取組の目的】

市民の健康増進に加え、スポーツ活動から「まちづくり」や「地域振興」へとつなげるため、スポーツと様々な分野の連携による交流人口の拡大やコミュニティ形成を目指す。

○スポーツを楽しめる環境づくり【継続】

-活動への参画や充実、習慣の形成など、世代ごとに異なる市民のスポーツ活動への課題に対し、公共施設等を活用したスポーツ教室の実施や体育施設の適切な整備等を通じて、だれもがスポーツに親しみを持ち、気軽に楽しめる環境を構築する。

○スポーツを通じた地域のにぎわい創出【継続】

-市が開催するまちなかマラソンや高齢者向けの体操教室など規模や年齢を問わず、集客力のあるスポーツイベントを活用して、より多くの関係人口を創出するとともに、新設したスピンクルウェルネスセンターやTTCスポーツパーク上下をはじめとした市内のスポーツ施設について、スポーツに限らず幅広い用途での利用を促進し、地域の活性化につなげる。

課題と情勢を踏まえた新たなプロジェクト

④ 関係人口

【取組の目的】

多様な担い手が活躍できるまちの実現に向け、関係人口の創出・活躍・持続に関する取組を進めるとともに、政府が掲げる制度を活用し、関係人口の見える化を進める。

○空き家を活用したまちのにぎわいづくり【継続】

-市内で増加している空き家に対し空き家バンクへの登録を促進するとともに、空き家を活用してまちのにぎわい創出に資する取組を志す方への支援や助言を通じて関係人口の増加とまちのにぎわい創出を狙う。

○ふるさと住民登録制度への参画に向けた検討【新規】

-政府が進める「ふるさと住民登録制度」への参画に向けた検討材料を集めるとともに、府中市の関係人口を増加させるために本制度上で進めていく具体的な施策について検討する。
(ふるさと住民登録制度については別紙参照)

○ふるさと納税の取組強化【継続】

-ふるさと納税の返礼品開発や専門業者との連携によるプロモーションの強化など多様な手段で幅広い層への認知拡大・新規寄附獲得を図る。

今後のスケジュール

回数	開催時期	議論の内容
	策定委員会	
第1回	令和7年5月30日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合戦略概要の説明 ・各課の関連施策の整理
第2回	令和7年7月8日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・次期総合戦略の方向性の説明 ・意見交換
第3回	令和7年7月28日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・素案審議 <ul style="list-style-type: none"> -戦略目標1:産業 ・意見交換
第4回	令和7年9月8日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・素案審議 <ul style="list-style-type: none"> -戦略目標2:子育て・教育 ・意見交換
第5回	令和7年10月31日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・素案審議 <ul style="list-style-type: none"> -戦略目標3:まちづくり・観光・スポーツ -戦略目標4:防災・健康・福祉・交通 ・意見交換
第6回	令和7年12月24日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・次期総合戦略案審議
パブコメ	令和8年1月(1か月程度)	
第7回	令和8年2月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの結果公表 ・次期総合戦略の提示